

授業科目名 ( 英文名 )	工学倫理 ( Engineering Ethics )	科目区分 対象学生	
単位数	2.0	開講年次・ 学期	2年次・後期
担当教員	鈴木 道隆	所属	産学連携・研究推進機構
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>講義目的：科学技術の発展は、人々により豊かで、快適な生活をもたらす一方、技術の不適切な使用や安全への配慮の不足などによる不祥事・事故も多発している。社会が求める技術の高度化・多様化に対応して、技術者には技術知識・能力の向上に加えて、技術を使う際の判断基準としての倫理観が強く求められている。技術者が“高い倫理観”をもって仕事に取り組むことの必要性和意義について理解を深める。</p> <p>達成目標：1.工学倫理についての理解、2. 技術者としての誇りと責任についての理解、3.倫理に関連する諸問題についての理解、4.実践的対応力</p>		
講義内容・授業計画	<p>講義内容：最近、社会の様々な所で倫理の必要性や重要性が叫ばれている。本科目では将来、産業社会で活躍する際に、研究者、技術者として備えるべき「工学倫理」について学ぶとともに、過去に実際に起きた様々な事例を通して、現実の倫理問題に直面した場合にどう対処できるかを考える。また、技術者の責任が大きい地球温暖化や環境問題、研究者や技術者として知っておかなければならない関係法規や知的財産、情報倫理も取り上げる。さらに、職場や製品の安全確保やリスク管理についても学ぶ。</p> <p>授業計画：1.工学倫理とは、技術者と倫理、2.製造物責任（PL法）、3.事例研究（チャレンジャー号事故）、4.人的要因と組織風土、5.安全問題、6.品質問題、7.リスク問題、8.中間試験、9.環境問題、10.地球温暖化問題（科学技術者の責任）、11.大気汚染防止、12.技術者と法規、13.知的財産、14.情報倫理、15.望まれる技術者になるには、総括</p>		
テキスト	教科書：近畿化学協会工学倫理研究会編著（化学同人）「技術者による実践的工学倫理 第4版 - 先人の知恵と戦いから学ぶ - 」		
参考文献	天野 明弘（兵庫県立大学名誉教授）、太田 勲（兵庫県立大学学長）、野津 隆志（兵庫県立大学教授）／編（有斐閣）、スタディ・スキル入門 -- 大学でしっかりと学ぶために		
成績評価の基準・方法	中間試験、期末試験を総合して評価（60点以上で合格）		
履修上の注意・履修要件	本科目は、教科書に基づいて講義を行い、特に、事例研究では、教科書記載の事例について熟読し復習すること。		
実践的教育	該当しない		
備考			